



BTCC “**新規口座開設限定**”

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

今すぐ口座開設/詳細はこちら

仮想通貨の将来性：今後を左右する5つの要因 | 最新予想

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/crypto-basics/5-factors-affecting-the-future-of-crypto-assets-virtual-currencies>

近年、[ビットコイン \(BTC\)](#) などの[暗号資産 \(仮想通貨\)](#) が注目を集め、仮想通貨の今後や今後を左右する要因について興味を持つ方はたくさんいらっしゃいますよね。

今回この記事では、仮想通貨の今後を左右する五つの要因を解説していきます。仮想通貨の価格はまだ安定しきっておらず、今後以下のような要因で価格変動することが考えられます。

【関連記事】

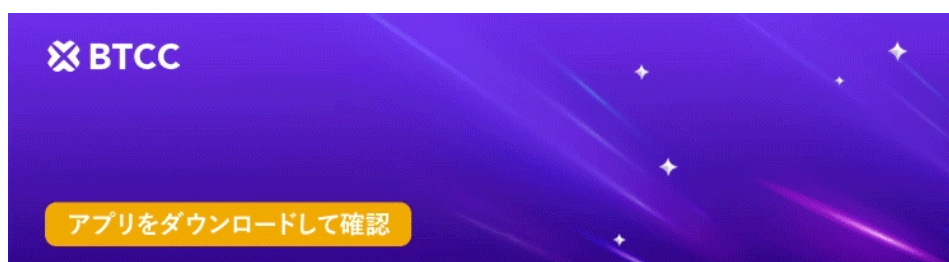
[仮想通貨・ビットコインは今後どうなる？ 将来性や暴落予想を徹底解説【2022年最新】](#)



仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)



[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典 \(10,055USDTギフトパック\) <<<<](#)

仮想通貨の将来性：今後予想

2023年はビットコインの新たな進化が始まる年と言われています。

仮想通貨今後の将来性を影響される要因といえば、「インフレ」や「法定通貨に指定できるかどうか」

などが挙げられます。

ヘッジ資産として、今後さらにインフレが進行した場合、ビットコインなどの仮想通貨が注目される可能性があります。また、これまでビットコインは個人を中心に取引されてきましたが、現在では機関投資家による取引も行われています。

2021年9月、エルサルバドルがビットコインを同国の法定通貨として正式に発表したことが注目されています。なお、エルサルバドルは2022年5月にビットコインの買い増しを発表、7月にさらに**80BTC**を購入し、平均取得価格は19,000ドルで合計約152万ドル（2億円）を費やしています。これにより、エルサルバドルの最新のビットコイン保有量は**2,381BTC**となりました。

エルサルバドルのように仮想通貨・ビットコインを法定通貨に指定する国が増えれば、ビットコイン価格の回復が一気に進む可能性があります。

仮想通貨・ビットコインは将来性があり、今後のさらなる上昇に期待されると一方で、これから仮想通貨・ビットコインを暴落する可能性もあります。

仮想通貨・ビットコインは「仮想通貨の規制」や「仮想通貨の大量売却」、「国際情勢」などによって暴落する場合はあります。

詳しくは下記の記事でご参考ください。

[仮想通貨・ビットコインは今後どうなる？ 将来性や暴落予想を徹底解説【2022年最新】](#)

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

仮想通貨の今後を左右する要因

1. 法整備が進む
2. 実用化が進む
3. ビットコインの半減期

4. ビットコインETFの承認

5. 大手企業の参入

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

仮想通貨の今後を左右する要因一：法整備が進む

仮想通貨は比較的新しい投資対象ですので、日本国内の法整備が未だに整っていません。今後仮想通貨が普及するには、「仮想通貨の税金制度」と「ICOへの規制」という2つに関する法整備を進める必要があります。

■ 仮想通貨の税金制度

仮想通貨の「トレード」「マイニング」などで得た利益には、税金がかかります。

国によって所得の種類や税率も異なりますが、日本では「雑所得」に分類されて課税されます。

最終的には「給与所得」など全ての所得と合算され、合計金額に応じて課税されます。

■ ICOへの規制

ICOとは新しい通貨を発行して、プロジェクトなどの資金調達を行うことです。ICOでは「仮想通貨の発行」を行うことで、比較的に簡単に資金調達を行うことができました。詳しくは下記のサイトへご参照ください。

関連：[ICOとは？初心者向けわかりやすく解説 | 用語集](#)

ICOには少額から投資することができ、かつ多額の資金調達を行える可能性もあります。実際に2017年～2018年にかけての暗号資産のバブル期には、ICOで「数億円」の資金調達に成功した例も数多く上がっています。

ただしその反面、ICOが詐欺などに用いられるケースも後を絶ちません。ICOで資金調達を行い、資金を集めた後は飛んでしまうなどの詐欺が後を立たなかったため、ICOへの規制を行なっている国も多いようです。

これらの問題を解決策を見つけ、よりたくさんの方が安心して投資することができるようになれば、仮想通貨市場もより活性化することが予想されます。

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

仮想通貨の今後を左右する要因二：実用化が進む

仮想通貨は「円」や「ドル」などの法定通貨とは異なり、発行主体が存在していません。世界共通で使用することができることから「決済通貨」として普及する可能性を秘めています。

ただし、現在仮想通貨はそこまで普及しておらず、やはり「現金」や「クレジットカード」による決済がまだ主流となっています。

仮想通貨の実用化が本格的に行われるには、まず「価格変動の安定」と「マネーロンダリングなど不正利用の防止」の課題を解決する必要があります。

仮想通貨は未だ「投機対象」として見られていることが多く、ボラティリティ(値動きの幅)が安定していません。価格変動が安定しなければ、保有しているだけで大きな損失を生んでしまう可能性があります。

また、仮想通貨の「匿名性が高い」という特性を利用した「マネーロンダリング」も多発しています。

仮想通貨がこれから決済通貨として普及するには「マネーロンダリングの規制」「価格の安定化」などが必要になってきますね。

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

仮想通貨の今後を左右する要因三：ビットコインの半減期

半減期とは取引承認作業(マイニング)で得られる報酬が半減することを指します。ビットコインの半減期は、今後の仮想通貨の価格に大きな影響をもたらす可能性が高いです。

ビットコインの新規発行は「マイニング」でしか行われませんので、半減期が訪れば実質ビットコインの流通枚数は半減することになります。流通するビットコインの枚数が少なくなれば、希少価値が高まって価格が上昇する可能性が高いです。

ビットコインの半減期は4年に一度訪れ、これまでのビットコインの半減期は下記の通りです。

- 1回目(2012年11月28日):50BTC→25BTC
- 2回目(2016年7月9日):25BTC→12.5BTC
- 3回目(2020年5月12日):12.5BTC→6.25BTC

これまで「3度」の半減期が訪れているので、次の半減期である「2024年」には、マイニングの報酬が「6.25BTC」からさらに半減し「3.125BTC」になります。

2020年、ビットコインは半減期の1ヶ月前である「4月上旬」からじわじわと価格が上昇しています。ですので、次の半減期である「2024年」には再び価格上昇する可能性が高いです。

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

仮想通貨の今後を左右する要因四：ビットコインETFの承認

ビットコインETFとは、ビットコインの「上場投資信託(Exchange Traded Fund)」のことを指します。ビットコインETFの承認は、今後の暗号資産の価格に大きな影響を与えるとされています。

仮想通貨取引所だけでなく、証券取引所でもビットコイン関連の商品の取引が可能になります。株式などの金融商品では「ETF」が盛んに行われていますが、ビットコインでもETFとして取引可能にしようという動きが広がっています。

ビットコインETFが承認されることになれば、証券取引所内でのトレードを行うことも可能になり、大口の機関投資家などの参入が予想されます。ETFによって大口の投資家が参入した場合、ビットコインを含め暗号資産の価格は「大きく上昇する」とも言われています。

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

暗号資産の今後を左右する要因五：大手企業の参入

最近では、大手企業も仮想通貨事業への参入を行なっています。国内取引所の場合でも、運営会社は大手企業である場合がほとんどです。

日本国内の仮想通貨取引所の運営会社としては、Coincheck、DMMBitcoin、SBIVCなどが挙げられます。

日本ではまだ普及していませんが、アメリカなどでは中小企業が暗号資産を「決済通貨」として採用し始めています。

仮想通貨決済を導入している企業

- スターバックス
- サーティーワンアイスクリーム

このようにして、大手企業が仮想通貨に関する事業に参入すれば、利用者増加によって市場がより活性化していくことも予想されますね。

仮想通貨やビットコインに興味を持つ方は、[BTCC公式サイト](#)をチェックしてみてください。

[口座開設&入金で最大3,500USDTゲット!](#)

[BTCC口座開設はこちら](#)

仮想通貨相場などに関してもっと知りたい方は、[BTCCのホームページ](#)をご参考ください。

[BTCC公式サイト](#)

BTCC取引所は、イギリスに設立された暗号資産デリバティブ取引所です。「信頼ができる暗号資産取引を誰もが簡単に利用できる」ことをモットーに、12年以上サービスを提供しています。ロンドンに本部を置くBTCCは現在日本での登録者数が徐々に増加しており、またSNSを通じて日本限定のキャンペーンも度々開催されています。

[BTCC口座開設はこちら](#)

【あわせて読みたい】

[ステラルーメン \(XLM\) とは？ 仮想通貨の特徴、将来性を解説！](#)

[ライトコイン \(LTC\) とは？ 特徴や将来性を解説！](#)

[ビットコインを無料でもらう方法5選！ | 暗号資産の稼ぐ方](#)

[DAOとは？ 5分でわかる分散型自律組織DAO | 用語集](#)

[暗号資産投資と株式投資、どっちがいい？](#)